

大阪観光局(DMO)の推進に関するトップ会議 議事概要

日 時：平成 29 年 1 月 24 日（火） 9:00～9:58

場 所：大阪商工会議所 4 階 401 会議室

出席者：松井 大阪府知事、吉村 大阪市長、尾崎 大阪商工会議所会頭、
森 関西経済連合会会長、蔭山 関西経済同友会代表幹事、
福島 大阪観光局会長、溝畑 大阪観光局理事長

議題： 国際観光都市・大阪をめざして

【挨拶】

■福島 大阪観光局会長

- ・早朝よりお集まりいただき感謝。ご存知かと思うが、先日、NYタイムズの「2017 年に行くべき世界の都市52」において、大阪が初めて選ばれ、大変うれしく思っている。具体的な話は後ほど理事長から行うので、私からはインバウンドと MICE の推進の2点についてお話をさせていただく。
- ・インバウンドについて、2016 年の来阪外国人旅行者は順調に推移しており、941 万人で前年比 131%。関係の皆様のご尽力・ご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。大阪は 2020 年に 1,300 万人、観光消費 1 兆 1,900 億円という目標を掲げている。その実現に向けて、新しい第2のステージに突入するというスタンスで取り組みたい。数も大事だが、これからはお客様の満足度をいかに上げるか、そして経済効果を大きくしていく、質の向上などを中心に取り組んでまいりたい。そのための課題は3点。一つ目は、欧米を中心とした富裕層の誘客に取り組む。関空の欧米線のネットワークの充実強化も必要。二つ目は、多様化するお客様のニーズに応えるためのマーケティングの実施。従来の爆買いから、歴史・文化・食などの体験・滞在型の観光へ変わってきている。関西広域観光への誘導・推進も重要。三つ目は、受入環境整備。後ほどサイン、24 時間コールセンターなどご報告するが、官民での最高水準の受入環境の整備が必要。
- ・大きな二点目として、MICE の推進。昨年、IR 推進法も成立し、夢洲への誘致を実現したい。MICE と IR が2つのエンジン・両輪という認識。MICE の推進にはオール大阪で取り組んで、大阪がアジアで有数の MICE 国際都市になれるよう、皆様方と取り組んでまいりたい。

【資料説明】

- #### ■溝畑 大阪観光局理事長
- （資料に沿って説明）

【出席者からの主な意見】

■尾崎 大阪商工会議所会頭

- ・観光局が色々な方面で取り組んでいる、その精力的な取組みに敬意を表したい。最初におっしゃったように、大阪の名前をどうやって知ってもらえるかということが大事。大阪という名前と「そこで何ができるか」ということをセットでこれからも発信していただきたい。
- ・そういう中では、観光と関係ないところでも、大阪を世界に発信できるよう、観光でやっている人は気付くかもしれないが、実際にビジネスでやっている人は気付かないと思うので、観光局でうまくことを持って行っていただきたい。例えば、工業製品に「MADE IN OSAKA」と書くことで、「こういうものを作っているんや」ということが分かる。今の例はどこまでできるかわからないが、直接観光に関係のない人をどう巻き込んでいくかが課題で、そういうことで知名度を上げていけるのではないか。
- ・食はもともと観光に関係はあるが、医療とかスポーツとかを観光のコンテンツにする取組みも良い展開だと思う。商工会議所はライフサイエンス分野や食に関する産業、それに加えてスポーツ分野の産業の振興を「健康・ウェルネス」というパッケージで考えていこうとしており、食やスポーツの観光については、是非一緒にやらせていただきたい。
- ・MICE は是非ともやっていかなければならないが、集まるための目的、医療であったり技術であったりというベースを強くする。「大阪には何もない」と言われぬよう、地道に新しい産業、商売の芽を育てなければならぬ。観光・ブランド価値を上げるということで一緒に考えていきたい。産業観光の分野になるが、企業のミュージアムにも外国の方は大勢来られている。社会貢献という観点でやっても、実は非常に大きな資源になるということも意識しながらやっていかなければならないなと思った。

■森 関西経済連合会会長

- ・トラベルセンター大阪、24 時間多言語コールセンター、これらは3月開設とのことだが、しっかり成果を上げつつあると実感。今後も、情報発信、梅田駅の案内板の統一、MICE、医療ツーリズムなどに積極的に取り組もうとしていることを心強く思う。
- ・私からは大阪観光局と関経連との一層の連携をお願いしたい。大阪・関西のインバウンドは好調を維持しているが、爆買の勢いは一時ほどでもない。気を抜かずしっかり取り組まなければならない。そのためには、オール関西の取組みも忘れてはいけない。関経連もこれまで、KANSAI ONE PASS や KANSAI Free Wi-Fi などを進めてきた。2020 年 1,800 万人、先ほどの大阪の目標とも整合は取れていると思うが、この高い目標を達成するため、これまで以上に効果的な施策を着実に実施していく。
- ・この4月には、(一社) 関西観光本部を設立し、より強力な推進体制を整える。大阪観光局にも協力いただけると聞いている。事業計画は現在検討を進めているが、事業の成果は参画いただける団体の力をいかに結集できるかにかかっている。
- ・大阪観光局は設立して4年になり、相当なノウハウも蓄積し立派な成果も上げていると思うが、同じDMOとして、関西観光本部に是非力を貸して欲しい。
- ・大阪を中心として関西全体のインバウンドが着実に増加し、経済効果も大きく膨らん

でいっているのでもよろしく願います。

■ 蔭山 関西経済同友会代表幹事

- 数字も伴っており、多方面に気配り目配りの利いた戦略を進めているようで、非常にワクワクしながら説明を聞くことができた。
- 万博、IR、スポーツイベント、全てに関して観光局が絡んでいくことを考えると、財務運営の難しさだけでなく、陣容の強化も必須だと思う。数百人規模かな。無理を承知で頑張っていたきたい。
- 同友会はIRについて、「関西MICE・IR推進委員会」において推進しており、MICEにも高い意識を持っている。我々はMICE施設の定義を1万人以上の会議場や10万㎡の展示場を持つ世界水準の施設としている。大型MICE施設は非常に採算が取り難いので、IR事業者にかジノの収益を充てて建設・運営してもらおう。一方でIR事業者は大型のMICEイベントをプロモートする能力を持っている。大型MICE施設を公設・公営でしようと思っている訳ではないと思うが、IR事業者を上手に使うって運営していくということをお願いしたい。
- 既存の大阪のMICE施設との連携は必須。京都や神戸にも同様の施設があるので、中規模のMICEイベントは、オール関西で取り組むという体制を築いて欲しい。
- 昨年9月に吉村市長と一緒にシンガポールの観光局から説明を受けた。彼らも公設のものやIR事業者のものと、たくさんの箱物を持っている。しかし、箱物があったから国際MICE都市になった訳ではなく、30年間にわたって戦略的に動いてきたとのこと。
- 具体的には、一つは空港の充実。先ほど福島会長からも話があったが、関空はまだ欧米路線が十分ではない。彼らは英語圏をPRしたいが、大阪はそうではないので、英語に代わるおもてなし・食・歴史・文化などの大阪の魅力をアピールすることでカバーできるのではないかと。もう一つは産業の育成。溝畑理事長の話のとおり、大阪には強みがあることをアピールすれば、色々なMICEイベントを集めることができると考えている。
- MICEについては我々も注目しており、協力させていただくので、今の意見も踏まえてしっかりやっていただきたい。

■ 吉村 大阪市長

- 平成28年の来阪外国人旅行者が941万人を記録するなど観光客が非常に増えている。溝畑理事長のリーダーシップと観光局の取組みの成果が着実に表れてきている。今後の世界の情勢や為替相場がどう動くか分からない中、多少円高に振れたとしても、確実に観光を大阪でキャッチするためにはコンテンツが重要。海外の事情がどうなったとしても対応できる、観光魅力の底力のある大阪を目指す。
- 多言語コールセンターでの医療の部分はきめ細やかな対応がなされると思っている。関西総領事の方々から「病気になったときに困る」という意見をお聞きしており、まさに今必要なことに率直に対応いただいている。このスタンスを続けていただきたい。
- MICEは箱物だけあってもダメ。大阪・関西が持っている様々な経済力に加えて、観

光力も一つ大きなポイントになる。シンガポール EXPO でも、IRの導入により、MICE が飛躍的に増えたということが数字として明らかに出ている。IR・万博・うめきたなど、大阪の活性化の核となるものが、2024~5年に集まってくるという意味では、そのための種植えを着実に実行していく非常に大事な時期にきている。この機会を逃さずにやっていく必要がある。

- 今大阪に足りないのはナイトエンターテイメント、夜遊ぶところがない。IRができれば大きく変わると思うが、それまでの間は大阪の伝統的な文化・芸能を楽しむシアターやショーホールが圧倒的に足りていない。市としても考えていきたいし、観光戦略としても是非考えていただきたい。
- 紹介のあった大阪城については、去年の大河ドラマで真田丸をやっていただき、かなり活性化してきている。PMOの取組みもあり、今年の6月には大阪城公園にも新たな集客施設がオープンする。天守閣に隣接する旧第四師団司令本部、「もと博」も今年の秋から歴史的建造物を活用したレストランとしてオープンする。長い目で見れば、難波宮跡地や東部一帯で評価して、開発を考えていかなければならない。難波宮跡についても、集客施設を誘致したい。豊臣期石垣公開プロジェクトの「太閤なにわの夢募金」については、なかなか募金が集まっていない状況なので協力をお願いしたい。夏の陣の後に徳川に埋められた豊臣の石垣の一部を公開しようという文化的な価値が高いものなので、実現するためのPRをやっていきたい。
- いずれにしても、今後941万人、日本の中でもトップレベルの観光魅力。大阪観光局を中心にやってきているが、これからさらにコンテンツを充実して、海外の状況はどう変わるかわからないので、その際に試されるのは地力だと思う。そこを強化していくため、経済界・府・市・観光局一体となってやっていきたい。

■松井 大阪府知事

- 観光局を設置して4年、着実に成果を上げていると思う。ただ、吉村市長からもあったが、一過性のものとしてはダメだということで、さらにスピード感をもって諸課題を解決してもらいたい。
- 梅田駅周辺のサイン事業について、29年度計画策定、30年度実施ということだが、予算的なものもあると思うが、できるだけ早く、スピード感を持ってやりたい。実施計画の策定も、大体の課題は浮き彫りになっているので、1年かけなくてもやれると思う。必要なところや伸びるところはスピード感をもってやる。30年度いっぱい完成ではなく、できるだけ早くやりたい。
- NYタイムズの「2017年に行くべき世界の都市52」やイギリスの雑誌でも8位になった。ただ、日本の中で喜んでいても仕方がない。経済界の皆さんには、海外に進出している大阪の企業もたくさんあると思うので、「実はNYタイムズでこう紹介されている」という広報や「大阪が注目されている」というパンフレット等を作って、世界に出ている事業所を通じて大阪をアピールしていただきたい。NYタイムズなので、アメリカでの大阪の知名度は上がってきていると思うが、他国ではなかなか伝わっていない。特にこれからアジアのお客さんを増やそうとするならば、世界中が認めている大阪をアピールするため、海外の事業所での広報をお願いする。

【自由討議】

■福島 大阪観光局会長

- MICE について、補足として少し提案させていただきたい。ハードについては夢洲の話があるが、戦略的な誘致が重要でこれがスタートになる。今回大阪 MICE 推進委員会で色々と検討するけれども、ここにいらっしゃる皆さんで、仮称ではあるが、「MICE 推進協議会」を作って、戦略的な誘致についての可否、「基本的にはやれ」とか、「金がかかるのでやめておけ」ということについて、トップレベルで協議する場を作らせていただきたい。

■松井 大阪府知事

- 異議はなく、ぜひお願いしたい。

■福島 大阪観光局会長

- 方向付けだけでも結構時間がかかる。詳細は事務方で詰めるが、皆さんよろしいか。オール関西という前に、まずはオール大阪でやりたい。京阪神は切磋琢磨する中で、オール関西としての MICE 推進をしていくことが現実的ではないかと思う。

■溝畑 大阪観光局理事長

- 今いくつか宿題をいただいた。特に急ぐものとして、大阪・梅田駅については、我々も必死で取り組むので、民間事業者の皆さんも決意と覚悟を持ってよろしくお願いしたい。また、MICE については、次回のトップ会議までに我々事務方で詰めて、早期に立ち上げるように調整する。
- 様々な課題をいただき感謝。初心を忘れずにやるので、今後ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願います。